

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104050
法人名	有限会社 山崎介護センター
事業所名	グループホーム とみひさ
所在地	愛媛県松山市富久町95-5
自己評価作成日	平成26年6月25日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

お1人お1人に合わせた介助をしている。食事時間をご本人に応じて起きている時に、重度になられご本人の思い等がわかりにくくなっているが、嫌がられることはしないように気を付けている。美味しいものを食べて頂けるように工夫している。その人らしさを尊重している。穏やかな生活が送れるように努力している。出来るだけ訪室して声かけをしている。看取りまでしている、看取り希望の家族さんが増えてきている。退所後も支援をしている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

5年前から、夜勤者が次の日の目標を日報に記入して、日勤者が中心となって実践する取り組みを続けておられる。他職種から介護職に就いた職員は、運営推進会議時に自分の思いや、学んだことを発表された。パンフレットや重要事項説明書に、「看取りまでお世話させていただきました」と明示しており、又、「看取り介護についての同意書」には「食事は最後まで経口摂取出来るように努めます」と書かれている。管理者は、運営推進会議時にも支援への思いを話されている。調査訪問日の数日前に看取った利用者は、2年前、病院で胃ろう造設をすすめられたが、ご家族の希望で造設はせずに事業所に戻り、カニや煮豆等、食べたいものを口から食べられるよう支援しながら見守られた。半年後、食べたいものの希望を聞くと「全部食べたからもう無い」と言われたが、職員は味見をしながら、美味しいミキサー食の工夫に努め、亡くなる日の朝まで口から食べられるよう支援された。事業所を出る際には、全員で見送り、葬儀の時間に合わせて事業所内でお焼香をして、故人を偲ばれた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム とみひさ

(ユニット名) ユニット

記入者(管理者)

氏名 山崎 カツコ

評価完了日

平成26年6月25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念は開設時から、何度も話し合ったが「ゆっくり、のんびり、心穏やかに」過ごしたい、と言うことで変更していない。小さな目標は夜勤の職員が立てて日報に記録している。目標を実践出来るように日々努力している。 (外部評価) 法人代表者である管理者が開設時につくった、「ゆっくり、のんびり、心穏やかに」という事業所理念は、職員で見直す度に「この理念が一番いい」との意見でまとまり、継続されている。管理者の「最後かもしれないこの一日を美味しいものを食べ、楽しく過ごして欲しい」という思いを職員はよく理解しており、一丸となって理念の実践に取り組んでおられる。管理者は、地域の中で「何かの時に力になりたい」と考えており、松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワークの協力事業所に登録し、玄関先に「シニアまもるくん」ステッカーを掲示している。又、東日本大震災時に紙パンツが保温等にも役立ったという話を聞き、地域の方の分も備蓄されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ご近所の方が、釣りたてのお魚や、お野菜を届けて下さる。防災訓練に参加して下さい。地域の行事には利用者と併に参加している。 (外部評価) 年1回、事業所でバザーを開催している。昨年は、地域の方やご家族から野菜や余剰品を提供してもらい、事業所でお餅やお寿司をつくり、ケーキとコーヒーも準備された。近隣の方には、ポスティングしたり、案内送付や口頭で伝え、100名程の参加があった。当日は、ご家族や地域の方がボランティアで手伝ってくれて、売上金は寄付されている。今年は秋に開催を予定している。利用者と職員で、地域の運動会や地藏盆等に出かけておられる。月1回音楽の先生の訪問があり、又、クリスマス会には子ども達が踊りを披露してくれた。ひな祭りや端午の節句等には、ボランティアの方がフルートを演奏して下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域から要請があれば講師に行ったり、相談にのっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 参加される家族さんから、毎回の運営推進委員会が楽しみだ、と言われる。家族さんの意見や、参加される方の意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 会議は、奇数月の第2土曜日夜7時からと決めて開催されている。市の担当者や地域包括支援センター、民生委員、ヘルパーステーションの方、地域の方、ご家族3～4名と職員もほぼ全員が参加されている。会議では、テーマに沿って事業所の現状や取り組み等の報告を行い、意見をうかがっておられる。「食事の形態と食べられる工夫について」をテーマに挙げた際には、参加者にミキサー食の試食をもらい「ちゃんとヒジキの味や筍の味がする」「酢物の色がきれい」等の感想をいただいた。ご家族からの意見もあり、会議時に「成年後見制度」について勉強されたことがある。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限り努力している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、地域包括支援センターの方から、映像を利用したり出版して事業所の取組みを広く知ってもらってはどうかと提案いただいた。事業所では、病院で胃ろう造設をすすめられた利用者が、胃ろうにせず事業所に戻り、半年後おいしそうに口から食事する利用者や介助する職員の様子をビデオで撮影して、運営推進会議時に見ていただいた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 鼻血が出るのでミトンを使っていたが、現在は使用していない。つなぎを使用していたが、おむつはずしが無くなり、パジャマでよくなっている。身体拘束をしない介護に努めている。</p> <p>(外部評価) 職員は、事業所内外の研修で身体拘束について学んでおられる。日中は、玄関に施錠することはなく、職員は目配り、気配りで利用者を見守っておられる。2階に居室があり、這って出てくる方等もおられ、危険防止のため階段降り口には扉を取り付け、施錠している。現在、階段を利用する2名の利用者は、日中は、ご自分で鍵を外して居室と1階を自由に行き来されている。居室の戸に紐を付けた鈴を挟み、利用者が戸を開けると鈴が鳴るようにして、夜間のトイレ誘導を支援している方もある。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  研修に参加、ケアカンファレンスでも話し合い虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  以前に成年後見制度を利用されていた利用者がおられた。(手続きからした) 研修にも参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には時間をかけ十分に説明をしている。不安や疑問がないか確認している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族会で意見が出せるようにしている。要望があれば外部者に報告したり、運営に反映させるが「良くして頂いているからこれ以上言う事はないです。」と言われる。(開設10年になるが苦情は1度もありません)  (外部評価)  月1回、利用者個々の担当者が利用者の日々の状況を手紙にして報告されている。毎月発行する通信、「グループホームとみひさ」には、利用者の日常の表情や外出、お誕生日会の様子の写真、又、次月行事予定を載せて、ご家族に報告や案内をされている。ご家族は事業所でケアに古布が必要なことを知ってくださっており、すぐ使えるように切って持参してくれるような方もいる。クリスマス会に併せて家族会を行っており、5名程の参加がある。ご家族だけで話す時間を持っており、ご家族からは感謝の言葉が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			ケアカンファレンス時や個人面談時に職員の意見を聞いている。良い意見は運営に反映させている。(ノロウイルス対策用品、防災用品の備蓄等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			今回の自己評価は、職員が個々に記入して管理者がまとめられた。職員は、外部研修に積極的に参加して、事業所の勉強会や運営推進会議時に内容を報告をされている。ノロウイルスに関する研修に参加した職員の報告を受けて、事業所では、感染防止用品一式を整備された。5年前から、夜勤者が次の日の目標を日報に記入して、日勤者が中心となって実践する取り組みを続けておられる。他職種から介護職に就いた職員は、運営推進会議時に自分の思いや、学んだことを発表された。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			研修への参加、資格取得に協力。日々楽しく働けるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			職場内の新人研修、個々に合わせた研修を受けるようにしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			同業者の会に職員と参加しネットワーク作りに努め、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	(外部評価のみ)
			入所前に、家族さんにセンター方式の記入をお願いしたり、ご本人さんに何度もお会いしたり、ホームに来ていただき、信頼関係作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族さんの不安なことをしっかりと聞くようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要としている支援を見極めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) お互いに支えあえる関係作りに努めている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と利用者の絆を大切にしている。(家族さんのフォローをしている。娘さんや、妹さん)	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) なかなか年とともに馴染みの人がいなくなってゆく。お墓参りや、いつも行っていた石寺手にお参りしている。お寺から入所されているのでそのお寺の行事には必ず参加している。 (外部評価) 管理者は、利用者のご家族の関係を大切に考えており、居室には、ご家族が来られた際、一緒に撮った写真を、大きく引き伸ばして飾っておられた。妹さんと石手寺にお参りに行っていた利用者には、妹さんが亡くなってからは職員が付き添ってお参りに行けるよう支援されている。又、目の不自由な利用者の通院時には、入居前と同じように、馴染みのガイドヘルパーさんに同行してもらえるよう支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) おやつ、食事時に誘いあっている。利用者同士が支えあえるようにしている。カルタ、トランプをしたり、カラオケを楽しんでいる。重度の利用者さんが増え部屋から出れなくなっているので、職員が度々訪室している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も相談や支援に努めている。家族以上に関わっていると思います。(入院時)	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 1人1人の思いを大切にしている。本人本位で対応している。  (外部評価) センター方式のアセスメント表を用いて、個々の思いや希望等の把握に努めておられる。思いや意向を表わすことが難しい状態の方については、複数の職員が個々に本人本位に検討して、ほぼ同じような結果になるか確かめておられる。又、利用者によっては「24時間シート」を利用して検討しているが、管理者は「同じように対応してもその時、その日によって結果は同じにならず、むずかしい」と話しておられた。	日々のかかわりの中で把握したご本人の思いや希望等の情報をご家族等も含め共有し、カンファレンス時等にさらに活かせるよう、工夫をされてみてはどうだろうか。又、職員の気付きを積み重ね、24時間シートを活かして支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族さんに入所前の経過をセンター方式に記入してもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 出来る限り、本人さんが出来ることはしてもらっている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ケアカンファレンスで話し合ったり、本人さんの意向、家族さんの意向を反映し、それぞれの意見を反映させ、ケアプランを作っている。</p> <p>(外部評価) 事業所では、「ご本人とご家族の思いを大切に介護計画作成」に努めておられる。計画の見直し時には、ご家族に思いや意向を書いていただき、計画に反映できるよう取り組まれている。月1回、ケアチェック表で実施状況をモニタリングし、見直しは入居後半年間は3回、その後は6ヶ月毎に行っておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 特別な事があれば特記に記入し職員間で共有しながらモニタリング、ケアプランの見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 1人1人の思いを大切にしている。その時々ニーズに応じて本人本位で対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の川の鯉を見に行ったり、消防自動車を見に行っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 健康診断や、毎週木曜日に往診に来て下さる。家族さんの希望に応じて必要時には説明もして下さる。看取り時には直ぐに来て下さる。</p> <p>(外部評価) ご家族と相談し、現在は、利用者全員が24時間体制で診てもらえる協力医療機関の往診を週1回受けておられる。専門医の受診は、看護師資格を持つ管理者が付き添うようにされている。歯科は、ご本人の状態によって訪問診療を利用されている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 管理者が看護師なので、個々の利用者に適切な支援をしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 入院時にはホームでの状況を報告している。医療機関と早期に退院出来るように話し合っている。家族さんにかわり、本人さんの洗濯や必要品を持参している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 入所時から家族さんや、ご本人さんと話し合っている。ホームで出来る事、出来ない事を十分に説明している。変化があれば直ぐに家族さんに報告して方針を共有できるようにしている。</p> <p>(外部評価) パンフレットや重要事項説明書に、「看取りまでお世話させていただきます」と明示しており、又、「看取り介護についての同意書」には「食事は最後まで経口摂取出来るように努めます」と書かれている。管理者は、運営推進会議時にも支援への思いを話されている。調査訪問日の数日前に看取った利用者は、2年前、病院で胃ろう造設をすすめられたが、ご家族の希望で造設はせずに事業所に戻り、カニや煮豆等、食べたいものを口から食べられるよう支援しながら見守られた。半年後、食べたいものの希望を聞くと「全部食べたからもう無い」と言われたが、職員は味見をしながら、美味しいミキサー食の工夫に努め、亡くなる日の朝まで口から食べられるよう支援された。事業所を出る際には、全員で見送り、葬儀の時間に合わせて事業所内でお焼香をして、故人を偲ばれた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  定期的に勉強会を行い対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  地域の方をお願いしている。非常食、オムツ等沢山備蓄していて、地域に貢献出来るようにしている。	
			(外部評価)  毎年、春は事業所独自で、秋には消防署の協力を得ての避難訓練を火元等、想定を替えながら実施されている。昨年11月は、夜間の火事を想定した訓練を行われた。消防署の方に毛布を担架にして避難する方法を教えてもらい、職員が利用者役になり、体験された。地域の防災訓練に参加後に、職員で話し合い、アルミブランケット等、必要と思う防災グッズを購入し揃えられた。水や非常食も備蓄されている。昨年、スプリンクラーを設置し、近隣の方から「いざという時は飛んで行く」と言ってもらっている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  お1人お1人の人格を尊重している。	
			(外部評価)  職員は「個々の尊厳を守る」対応に努めており、調査訪問日の昼食時、丁寧な言葉遣いで話しかけておられた。耳の遠い利用者には、職員はご本人の耳元で穏やかに話しかけ、声のトーンにも気を付けておられる。ご家族から「名前を呼んでほしい」又、ご本人から「『じっちゃん』と呼んでほしい」との希望があり、親しみを込めて呼ぶような場合もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  重度の利用者さんにも自己決定出来るような声かけをしている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) お1人お1人のペースを大切に支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来るだけご本人が出来るようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 重度化され食事介助が必要となっている、お1人お1人が好きな食べ物を理解している。食事の準備は無理になっているが、豆の皮むき等は一緒にしてもらっている。	
			(外部評価) 食事の時間には、利用者同士で声を掛け合い、居間に出てこられるような様子も見られるようだ。献立は、1ヶ月分を職員が交代で立てており、水分補給等を考慮して毎食汁物と野菜の煮つけが付き、果物も朝はバナナ、昼・夕食はスイカやさくらんぼ等、季節のものを付けている。少量ずつ多種類の惣菜をつくり、目で楽しめるよう彩りにも考慮して調理されている。ご本人の希望で毎朝、パン食でドリップコーヒーを入れ楽しむ方も支援されている。職員は、利用者の横で同じものを食べながら、お箸とスプーンを持ち替えてもらったり、お皿を傾ける等、利用者をご自分で食べやすいようにサポートされていた。スイカを食べながら「庭でスイカ割りがしたい」と言われた目の不自由な利用者の膝に、管理者がスイカを乗せると、利用者は重さや感触を楽しんでいた。誕生日は、ご本人のお好きなメニューと手作りケーキでお祝いされている。調査訪問日の午後のおやつは、事業所の庭で春に採り、保存していたヨモギで蒸しパンを作っておられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 旬の食材で見た目も美味しそうに栄養面も考えてバランス良く作っている。水分は1人1人の必要量を摂取できるように工夫している。夏に向けて脱水を起こさないように、寝る前にアクエリアスをのんでいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは毎食後必ず、ご本人が出来ない場合には職員がし。ている。口腔ケアの研修にも行っている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)  寝たきりの方もトイレでの排泄を心がけている。  (外部評価)  座位保持が困難な方も身体を支える等して、トイレでの排泄支援に努めておられる。衣類の上げ下ろし等、トイレ内の動作は、利用者のできる力を見極め、ご本人の力を活かせるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)  毎朝バナナ、ヨーグルトを食べている。便秘の方には冷たい牛乳を飲んでいただいたり、体操をしたり工夫している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)  タイミングを見て気持ち良く入浴出来るように利用者本位にしている。  (外部評価)  日曜日以外は、毎日入浴の準備を行い、利用者の希望に応じているが、現在、入浴を拒む方が多いようだ。タイミングをみたり、声掛けの工夫も重ねており、毎回「10日目ですよ」と伝えると「そうか」と言って入浴につながる場合もあるようだ。重度の方は、2日に1回を基本に2～3人で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。季節によって柚子湯や菖蒲湯を楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)  昼夜逆転している方がおられるが眠れる時に眠ってもらっている。パジャマの着替えを手伝ったり、テレビやラジオをかけた後、今までの生活習慣に応じた支援をしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 作用や目的を理解し服薬管理をしている。新しいお薬が出た場合には服薬後の観察を少しの変化も見逃さないように努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) お1人お1人に合わせ支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 重度になられなかなか戸外にでかけられなくなって来ている。石手寺に昔良く行かれていた方は、行きたいと希望されたら行っている。お墓参りにも行きました。	
			(外部評価) 利用者の高齢と重度化のため、以前のように遠出や日常の散歩が難しくなっているようだ。今年は、元旦に近所の天満宮に初詣に行き、春には松山総合公園の桜を車窓から楽しまれた。利用者宅でもあるお寺の花まつりに、4・5月の2回、ほぼ全員で出向き、甘茶を楽しまれた。お墓参りを希望する方は、職員が付き添い、ご家族も一緒にお参りされた。気候をみて、庭で日向ぼっこをしながらおやつを食べたり、重度の方も体調をみながら外気に触れる機会をつくっておられる。猫がお好きな利用者は、散歩途中に、近所の飼い猫に会いに行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 支援している。お1人は5万2千円持たれている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたり、かかってきたり、年賀状をかいたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居心地良く過ごせるようにしている。トイレに頻回に行かれる方がおられるので、タイミングを見て誘導し混乱を招かないようにしている。</p> <p>(外部評価) 事業所の庭には、ポーチユラカ等の花が咲き、大葉が茂り、スイカの小さな玉が2個並んで生っていた。玄関前には、メダカが泳ぐ鉢が並んでいる。食卓テーブルの上には、事業所の庭に咲く桔梗の花を竹細工の花瓶に挿して飾られていた。居間の壁面には、事業所の行事の写真や、塗り絵やお習字等、利用者の作品が掲示されている。居間に面しているトイレのドアの前にカーテンを取り付け、目隠しにしている。各階に温度計を設置し、職員が温度管理をされている。日中、利用者は、居間で過ごすことが多いが、現在、高齢で重度の方も増え、調査訪問日の昼食後、歯磨きを終えた利用者に居室で休むよう、声を掛けていた様子が見られた。午後のおやつ後は、居間でトランプを楽しむ利用者と職員の大きな笑い声が聞こえた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ホールではご自分の座る席が分かっておられ職員の姿を見て安心して過ごされている。時にはお部屋で好きに過ごされる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居心地良く過ごせれるように家族さんと相談して配置している。使い慣れたものを持ってきてもらっている。</p> <p>(外部評価) 居室に備えてあるベッドは、ご本人が入居前に過ごしていた部屋と同じ位置に置くように配慮されている。使い慣れた寝具やタンスを持ち込み、テレビが置かれた居室もある。ご家族や孫、ひ孫の写真が飾られていた。ほとんどの居室にカレンダーが掛けてあり、職員は、カレンダーを見ながらその日の日付や季節を話題にされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 階段をリハビリ目的で使っている。建物内はバリアフリーになっている。</p>	